

## 【FdData 中間期末：中学歴史：飛鳥時代】

### 【聖徳太子の政治改革】

【聖徳太子が摂政となる】

【問題】(2 学期中間)

次の文の①～④に適語を入れよ。

6 世紀になると、地方で豪族が反乱を起こし、中央でも( ① )氏や物部氏が権力争いを繰り広げていた。この争いを和らげるため、女性の( ② )天皇が即位し、そのおいの聖徳太子が( ③ )になった。このころ中国では( ④ )が強大な帝国をつくりあげたが、聖徳太子は(①)馬子と協力して、(④)のような進んだ国を作るために政治制度を整えようとした。

【解答】① 蘇我 ② 推古 ③ 摂政 ④ 隋

【解説】

[ 聖徳太子 ]

593年 推古天皇 の摂政になる

蘇我馬子 と協力して政権をにぎる

6世紀になると、地方で豪族が反乱を起し、中央でも蘇我氏そがしや物部氏もののべしが権力争いを繰り広げていた。蘇我氏は、外国の宗教である仏教をとり入れようとして、これに反対する物部氏と争って滅ぼし、政府内で大きな力をふるった。



一方、中国では589年に隋ずいが中国を統一して強大な帝国をつくりあげ、国際的緊張が高まった。

こうした内外の情勢の中、593年に女性の推古天皇すいこが即位し、そのおいの聖徳太子しょうとくたいしが摂政せつしょうになった(五組(593)いっしょに裁く聖徳太子)。摂政とは、天皇が女性であつたり幼少であつたりするときに置かれることがあります、天皇の代理として政治を行う役職である。聖徳太子は蘇我馬子そがのうまこと協力して政治制度を整えようとした。当時の政治の中心は飛鳥地方あすかであつた。

[問題](1 学期期末)

次の文の A, B, C の人物名を書け。

A は、おばの B が天皇になったとき、実力者の C と協力して、政治舞台にあらわれた。C は 587 年に物部氏を滅ぼし、592 年に対立していた崇峻天皇を暗殺した。即位した女帝 B はおいの A を 593 年に摂政とし、国政を担当させた。

[解答]A 聖徳太子 B 推古天皇 C 蘇我馬子

[問題](1 学期中間)

次の各問いに答えよ。

- (1) 日本に仏教が伝わった後、仏教を取り入れようとして物部氏と争って勝利し、大きな力をもったのは何氏か。
- (2) 589 年に中国を統一した国の名を書け。
- (3) 聖徳太子は( ① )天皇を助けるために( ② )という位について政治を行った。①, ②に適語を入れよ。
- (4) (3)のころ、政治の中心であった場所を、右の地図中のア～エから 1 つ選び、記号で答えよ。



[解答](1) 蘇我氏 (2) 隋 (3)① 推古 ② 摂政  
(4) エ

[問題](2 学期期末)

聖徳太子は推古天皇の摂政となったが、摂政という役職の内容を、「天皇」という言葉を使って説明せよ。

[解答]摂政とは、天皇が女性であったり幼少であったりするときに置かれることがあり、天皇の代理として政治を行う役職である。

[問題](2 学期中間)

国の支配者である「大王」ということばは、7世紀ごろに別の呼び方になっている。何という呼び方になったか。

[解答]天皇

[解説]

大王はのちに「天皇」と呼ばれるようになったが、その時期については、遣隋使を派遣した推古天皇のころという説と、大王(天皇)の地位がおおはばに高まった天武天皇、持統天皇のころ(7世紀後半)という説とに分かれている。

## [冠位十二階]

### [問題](1 学期期末)

家柄にとらわれず，才能や功績のある個人を役人に取り立てるために，聖徳太子が定めた制度は何か。

### [解答]冠位十二階

### [解説]

#### [ 冠位十二階 ]

家柄に関係なく，才能のある人物を役人に登用する制度

聖徳太子は，国家の仕組みを整えるため，603年に<sup>かんいじゅうにかい</sup>冠位十二階を，604年に<sup>けんぽう</sup>十七条の憲法を定めた。冠位十二階は，役人の位を冠の色(紫色が最高位)で区別する制度で，<sup>いえがら</sup>家柄にとらわれず，<sup>こうせき</sup>才能や功績のある人物を役人に取り立てようとするものであった。

[問題](2 学期中間)

聖徳太子が制定した、冠位十二階の制度の内容を説明せよ。

[解答]家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人に取り立てるための制度。

[問題](1 学期中間)

冠位十二階の制度の中で最も高位の色とされたのは何色か。次の[ ]から1つ選べ。

[ 黄色 紫色 黒色 青色 ]

[解答]紫色

## [十七条の憲法]

### [問題](2 学期中間)

次の資料について、後の各問いに答えよ。

一に曰く、和をもって貴しとなし、さからう(争う)ことなきを宗と(第一に)せよ。

二に曰く、あつく三宝を敬へ。三宝とは仏・法(仏教の教え)・僧なり。

三に曰く、詔(天皇の命令)をうけたまわりては必ずつつしめ(守りなさい)。

- (1) この資料は何か。
- (2) (1)を制定した人物は誰か。
- (3) (2)の人物は(1)で、役人のどのような心構えを示したか。資料の二と三の内容にふれて説明せよ。

[解答](1) 十七条の憲法 (2) 聖徳太子

(3) 仏教を重んじるべきことや天皇の命令に従うべきことなどの役人の心構え。

### [解説]

しょうとくたいし  
聖徳太子は、604年に十七条の憲法を定め、仏教を重んじるべきことや天皇の命令に従うべきことなど、役人の心構えを示した。

「一に曰く、和をもっていわ貴しとなし、さからう(争う)ことなきを宗とせよ」とは「和をたつと尊び、争いをむねやめよ」という意味である。この記述からも、当

時、豪族間の対立が激しかったことがわかる。

「二に曰く、あつく三宝を敬え。三宝とは仏・法・僧なり」とは「仏教を重んじよ」という意味である。仏教をさかんにする<sup>さんぼう</sup>ことで豪族間の対立をやわらげ、仏教を共通の信仰<sup>しんこう</sup>として国家の統一をはかろうとした。

「三に曰く、詔<sup>みことのり</sup>をうけたまわりては必ずつつしめ」とは「天皇の命令を受けたときは、必ずこれに従え」という意味である。この当時、天皇(大王<sup>おおきみ</sup>)の命令(詔<sup>みことのり</sup>)が必ずしも遵守<sup>じゅんしゅ</sup>されていなかったことがうかがえる。このころの大和政権は、豪族の連合政権であり、天皇(大王)の権力は絶対的なものではなかった。



【問題】(1 学期中間)

次の資料を見て、後の各問いに答えよ。

一に曰く、和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗とせよ。

二に曰く、あつく a 三宝を敬え。…

三に曰く、b 詔をうけたまわりては必ずつつしめ。

(1) 資料は何というか。

(2) 資料中の下線部 a で、「三宝」にあてはまらないものを次の[ ]から1つ選べ。

[ 仏 徳 僧 法 ]

(3) (1)を出した人物とともに、仏教を広めようとしたのは何氏か。

(4) 資料中の下線部 b は国家の中心となる地位にある人からの命令のことである。この地位にある人を何というか。

(5) 資料は誰のための心構えであるか。次の[ ]から1つ選べ。

[ 役人 農民 奴隷 ]

【解答】(1) 十七条の憲法 (2) 徳 (3) 蘇我氏

(4) 天皇(大王) (5) 役人

[問題](1 学期期末)

次の資料を見て、後の各問いに答えよ。

一に曰く、和をもって貴しとなし、さからう(争う)ことなきを宗とせよ。

二に曰く、あつく三宝を敬え。三宝とは仏・法・僧なり。

三に曰く、詔をうけたまわりては必ずつつしめ。

- (1) 上の資料は何の一部か。
- (2) これを制定した人物を漢字で答えよ。
- (3) これを制定した人物は何という天皇の摂政となったか。
- (4) 上の資料の条文は何世紀の初めに制定されたか。
- (5) 次の中から、この教えの内容として正しくないものを記号で1つ選べ。
  - ア 役人に天皇の命令に従わせ、天皇中心の国家をつくろうとした。
  - イ 政治や役所のしくみを定めた。
  - ウ 藤原氏と協力しようとした。
  - エ 役人に対して心得などを説いている。
- (6) 上の資料を制定した人物は、家柄や出身に関係なく、才能のある人物を役人に登用する制度を始めた。この制度を何というか。

[解答](1) 十七条の憲法 (2) 聖徳太子 (3) 推古天皇 (4) 7世紀初め (5) ウ (6) 冠位十二階

[解説]

(5) ウが誤り。藤原氏は、聖徳太子の死後の大化の改新の中心人物の一人である中臣鎌足なかとみのかまたりの子孫である。

[問題](1 学期期末)

次は聖徳太子が定めた十七条の憲法の一部である。①～④に適語を入れよ。

一に曰く、( ① )をもって貴しとなし、さからうことなきを宗とせよ。

二に曰く、あつく( ② )を敬え。(②)とは( ③ )・法・僧なり。

三に曰く、( ④ )をうけたまわりては必ずつつしめ。

[解答]① 和 ② 三宝 ③ 仏 ④ 詔

[問題](1 学期中間)

十七条の憲法の中の「詔をうけたまわりては必ずつつしめ」の意味を分かりやすく書け。

[解答]天皇(大王)の命令を受けたときは、必ずこれに従え。

## [遣隋使]

### [問題](1 学期期末)

次の各問いに答えよ。

- (1) 聖徳太子は進んだ文化や制度を取り入れようと中国へ使節を送った。この使節を何というか。
- (2) (1)の使節として送られた人物は誰か。

[解答](1) 遣隋使 (2) 小野妹子

### [解説]

#### [対外関係]

589年 隋が中国を統一

593年 聖徳太子が摂政になる

607年 遣隋使 (小野妹子)

618年 唐が中国を統一

589年に隋ずいが中国を統一し、強大な帝国をつくりあげた。聖徳太子しょうとくたいしは、東アジアでの立場を有利にし、隋の進んだ制度や文化を取り入れようと、607年に小野妹子おののいもこを遣隋使けんずいしとして派遣はけんした。

聖徳太子が隋の皇帝にあてた国書こくしょには、「日出づるいところてんしの天子、書を日没する処の天子にいたす。つづがなきや」とあった。「日出づる処の天子」とは、太陽の昇る東の方にある国、すなわち日本の天皇

のことであり、「日没する処の天子」とは、日が沈む西の方向にある国、すなわち中国の皇帝のことをさしている。隋の皇帝は「蛮人ばんじんたちの手紙には無礼なものがある。そういったものは、もう二度と耳に入れるな」と怒ったという。聖徳太子は、以前の朝貢外交ちょうこうがいこうではなく、対等な立場での国交を求めたのである。

隋は大運河の建設や外征を行ったが、兵役や重税に苦しむ農民の反乱によって滅び、618年に唐とうが中国を統一した。

遣隋使が持ち帰った中国の文化により、日本で初めての仏教文化が栄えた。

[問題](1 学期期末)

次の資料は聖徳太子が中国の皇帝に送った手紙の一部である。これについて、後の各問いに答えよ。

①日出づる処の天子，書を②日没する処の天子にいたす。つつがなきや…

- (1) 下線部①にあてはまる国名と下線部②にあてはまる中国の王朝名を書け。
- (2) 資料の手紙を持っていった使いの人物はどれか。
- (3) 聖徳太子が資料のような手紙を送った目的を説明せよ。

[解答](1)① 日本 ② 隋 (2) 小野妹子

(3) 隋と対等な外交関係を結ぶため。

[問題](1 学期期末)

文中の①，②に適語を入れよ。

中国では、6世紀の末に、( ① )が強大な帝国をつくりあげた。やがて、7世紀のはじめには、(①)にかわって( ② )が中国を統一した。

[解答]① 隋 ② 唐

◆社会歴史の各ファイルへのリンク

<http://www.fdtype.com/dp/sr1/index.html>

◆FdData 中間期末の特徴(QandA 方式)

[http://www.fdtype.com/dp/qanda\\_k.html](http://www.fdtype.com/dp/qanda_k.html)

◆製品版(パソコン Word 文書：印刷・編集用)  
の価格・購入方法

<http://www.fdtype.com/dp/seihin.html>

※ iPhone でリンク先が開かない場合は、  
「iBooks」を開いてリンクをタップください。

【Fd 教材開発】 Mail : [info2@fdtype.com](mailto:info2@fdtype.com)